

2025年頭所感



一般社団法人日本アルミニウム協会
会長 石原 美幸
(株式会社UACJ 取締役会長)

あけましておめでとうございます。年頭のご挨拶を申し上げます。

まず、昨年を振り返りますと、元日の能登半島での震災に始まり、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発出や大きな台風（台風10号）に伴う大雨など、自然災害に翻弄された一年となりました。世界的にもウクライナ紛争に収束の兆しが見えず、アメリカ合衆国、韓国、そして我が国も例外ではなく、各国での政権も不安定、不透明な状況が続いています。一方、日経平均株価が昨年7月に史上最高となる4万2千円を超え、大リーグの大谷翔平選手がメジャー史上初となる「50本塁打、50盗塁」を達成するなど、明るいニュースもありました。

私たちの本業であるアルミニウムを始めとする軽金属業界に目を向けますと、夏場の台風や大雨の影響で自動車材や缶材に一時的な出荷停止があり、人手不足の影響から建材も減少傾向が続いたことなどにより、アルミ圧延品出荷量は前年比マイナスとなる厳しい一年でした。ただし、解決すべき課題はいくつか明確になってきたように思います。

次に本年は、需要環境が上向くことが期待されます。自動車材は、軽量化のためのアルミパネル材の採用車種や採用部位が増え、需要が伸びると考えております。建設分野でも、首都圏ではオフィスビルの再開発が進んでおり、建材を含め多くのアルミ材が使用されることを期待しております。

半導体製造装置向けの厚板材や装置材は最も期待される分野です。次世代半導体製造工場が国内で稼働を始め、政府においても半導体やAI分野に複数年度で公的支援をする方針を明らかにしており、大きく需要が増加するものと期待しております。

リサイクルの優等生の代表製品であるアルミ缶材についても、リサイクルアルミの使用率を高めることができる飲料用缶蓋が大手ビールメーカー4社に採用されたり、ボディとキャップをユニアロイ化した缶も開発されるなど、新地金の使用量を減らすことで、アルミ利用拡大により脱炭素社会の実現を促進していきます。

アルミ業界といたしましては、貴重な国内低炭素資源としてのアルミニウムの国内循環の促進により、環境にやさしい素材としてアルミが認知され消費者の皆さんに選んでいただけるよう取り組んでいくことが大事だと思います。そのひとつの取り組みにおいて「私たちが目指す姿」を以下のように表明しています。

持続可能で豊かな社会、世界の実現のために、サーキュラーエコノミーとネイチャーポジティブの活動を通じて、アルミ資源を循環利用することです。

- ①軽量化や熱伝導性、電気伝導性などに優れるアルミ材の利用拡大により社会全体の脱炭素に貢献する。
- ②リサイクルアルミの利用拡大により化石エネルギー由来の輸入地金を低減し、脱炭素化を図り、地金の使用削減にネイチャーポジティブに貢献する。
- ③国内資源循環に取り組み資源循環型社会の構築（経済安全保障対応）に貢献。
- ④廃棄物になり難いアルミの利活用を増やすことで海洋その他の汚染問題の解決にも貢献。

この実現のために今年は、アルミニウムが世界各国同様我が国においても「重要鉱物」として認定されるよう最大限の取り組みを行います。ここにご参集の産学官の皆様と連携し一体となって取り組みたいと存じます。

同時にサプライチェーンを通じた価格転嫁の取り組みも引き続き進めていく所存です。原燃料など諸物価の高騰による影響と価格への転嫁状況を把握するために、昨年末に第3回目のアンケートを実施しました。結果として、価格転嫁は進展しているがまだ十分とは言えず、特に労務費をはじめとする諸コスト上昇の価格転嫁が進んでいない実態が明らかとなりました。この結果は大きく新聞報道もなされました。こうした実態を踏まえ、会員会社の取引先への価格転嫁の理解を求める文書をアルミ協会会長名で発信いたしました。今後も原燃料価格や為替などの動向、また賃上げの状況なども注意深く見守りながら、アルミ協会としての期待役割を果たしてまいりたいと考えております。

今年は巳年です。巳年は、力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年とされています。他にも巳（み）と実（み）をかけて「実を結ぶ」年と言われたりもします。そこで私たちアルミ業界も新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示し、リサイクル性に優れ、水平リサイクルが実現している数少ない素材であるアルミの需要を増やす「アルミ（巳）の年」にしましょう。皆様のご健勝とご活躍を祈念し私の年頭の挨拶といたします。

以 上